

# Development of a Sustainable Community-based Hazard Map Creation Support System for Traditional Towns with Local Heritage

Yasuhide Okazaki, Seina Mori, Hiroshi Wakuya, Nobuo Mishima, Yukuo Hayashida

本論文では、地域住民が日常生活の中で継続的にハザードマップを作成することを支援するシステムについて述べる。地域住民が日常生活の中で継続的にハザードマップを作成することを支援するシステムの設計・開発についてシステムの設計にあたり日本の佐賀県にある伝統的な町並みをモデルとしたヒアリング調査を行った。その結果継続的な取り組みにもかかわらず、実際には多くの問題が残り、住民は不安を感じている。これらの結果を踏まえて、地域の防災・減災に貢献する ICT を活用した独自の支援システムを設計・開発をすることで住民などの自然災害や火災などの不安を軽減することにつながる。

そのシステムでは住民はその場所に関する情報（災害の種類、危険度、写真、コメント、位置情報）を登録し情報の収集を行う。詳細情報を登録し情報を継続的に共有することで地域に根ざした持続可能な防災・減災に大きく貢献できる。一人ではわからない視点からコミュニティベースを再考することが可能である。またこのシステムは iOS アプリケーションであるため、どの町にも簡単に適用することができる